
獣医コミュニケーション研究会会報 第6号 (2026)

1. 巻頭言

2. 報告

- ・2025 動物感謝デー in JAPAN "World Veterinary Day"
- ・2025 年 年次大会

3. 事務局からのお知らせ

- ・行事予定
- ・総会議事録

1. 巻頭言

2025 年は役員の改選が行われました。これまで規約施行当初の役員体制をそのまま継続してきましたが、第 3 期役員として、いよいよ陣容に変化が生じることとなりました。具体的には、動物感謝デーを主体的に進めている寺内さんが新たに役員に加わり、ご無理をお願いしながらご協力いただいていた中尾さんがご退任されました。また事務局についても、定年退職される(延長戦に入られるそうですが)堀北さんから、これまで監事を務めてこられた松井さんへ交代しました。新監事には柴田さんにご就任いただいています。

各々が志のままに活動することを背景に、「世話をしない世話人会」として始まった経緯もあり、これまでは無理をせず進めてきた役員会でした。しかし、事務的な対応や音頭を取る役割が求められる場面も増えてきました。そのため、「世話をしない」体制から「世話をする役員」へと移行していく時期にあるのかと思います。

例えば最近では、各々が思うままにイベントを開催するというよりも、研究会として主導する形が増えています。動物感謝デーについても、有志を募り、有志一同で動く体制がより明確になり、その場を通じた交流もさらに深まり、有意義なものになってきたと感じています。とはいえ、個人個人の活動がなくなったわけではありません。以前のようなイベント開催とは異なる形で、各々が NDK の志に関連するような活動をしています。年次大会では久しぶりに活動報告のセッションを設けることができました。また、若い方も含めて、久しぶりに堀北さんと柴田さんによるやぐら鶴を経験できたことも、改めて NDK 的な活動の重要性を実感させる機会となりました。

生々流転は世の常ですから、NDK だけが変わらずにいるわけにはいきません。皆さんが獣医コミュニケーションに関わる活動をやすく、また「やってみよう」と思えるように、NDK もより良い方向へと変わり続けていくことが大切だと感じています。

(木村祐哉)

2. 報告

・2025 動物感謝デー in JAPAN ”World Veterinary Day”

1. 日時:2025年11月15日(土) 10:00~16:00
2. 場所:上野恩賜公園 不忍池周辺(東京都)
3. 主催:公益社団法人 日本獣医師会

<開催報告>

今年は「動物福祉」をテーマに畜産と実験動物の2つの大パネルで、現場での工夫について道行く方々と一緒に考えました。半年前から話し合いを繰り返す中で、実験動物を大きく取り上げることとなり、関さんの紹介で山根さん、山谷さんという強力な助っ人が加わりました。実験動物チームからサイエンスアゴラなどで培った市民と科学をつなぐ経験について多くを共有してもらい、NDK だけではできなかったであろう「現場を語る」2大テーマでのサイエンスコミュニケーションのブースを実現できました。パネルには複数の動物福祉的な工夫が表現され、参加者はそれらを指摘していき、制作側の意図していない意見も「新たな視点」として不正解はないというルールとしました。色とりどりの実験動物用おもちゃ(エンリッチメント)が子どもたちをブースへ引き込んでくれたことに加え、JAVS の学生たちの精力的な解説と、ミルクおやじさんの歌とダンスで大いに盛り上がりました。ときには残酷なイメージを持たれやすい畜産と実験動物について、令和の少し優しいイメージへアップデートできたのではないのでしょうか。(寺内宏光)



・2025年 年次大会

1. 日時:2025年11月30日(日) 13:00~17:00
2. 場所:日本大学 湘南キャンパス
3. 参加費:無料(参加人数 23名)
4. テーマ:診療現場のコミュニケーション

※獣医療提供体制整備推進協議会及び公益社団法人日本獣医師会が実施する令和7年度獣医療提供体制整備推進総合対策事業として開催

<プログラム>

- 基調講演:「Likert型尺度による心理測定の基礎」(増田真也先生:慶應義塾大学)
演題
- 募集演題
 - 活動報告:PED対策を例とした農場防疫対策に有効と考えられた弱いつながり理論の効果(高野 晃一)
 - 一般口演:動物実験におけるブタの活用について(関 あずさ)
 - 一般口演:アリエスの死の類型を応用した犬の飼い主の死生観調査(斉藤 凜久)
 - 倫理審査受審研究の中間・完了報告:飼い主とのやりとりに対して感じるストレスに関連する要因の探究(友野 悠)
- ワークショップ:「獣医療に必要なノンテクニカルスキルをやぐら鶴で鍛える」(堀北哲也先生:日本大学)

<開催報告>

まず基調講演では、慶應義塾大学の増田真也先生より「Likert型尺度による心理測定の基礎」が講演され、獣医療における調査研究の質を高めるための基礎的知識が、わかりやすく解説された。

次に、活動報告1題、一般口演2題、倫理審査受審研究の中間・完了報告1題の発表が行われ、さまざまな獣医療分野において実施された研究・調査が共有された。

最後のワークショップでは、堀北哲也先生による「獣医療に必要なノンテクニカルスキルをやぐら鶴で鍛える」が実施され、チーム戦を行った後、全体でのディスカッションが行われた。参加者は体験を通じて、チームワークやコミュニケーション能力の重要性を再認識した。

(友野 悠)

3. 事務局からのお知らせ

・行事予定

2026年4～5月 総会・役員選挙

2026年9月 動物感謝デー

2026年10～11月 年次大会

・総会議事録

獣医コミュニケーション研究会 2025 年度総会 議事録

2024 年 5 月 8 日 19:10~20:00 於:オンライン

出席者: 木村祐哉、白戸綾子、今井 泉、堀北哲也、石山 大、塩田友里恵、小沼 守、榎谷雅文、
武田 哲、山本浩通(敬称略、順不同、10 名)

議事録作成者: 木村祐哉

1. 事業報告

1) 企画実施

2024 動物感謝デー in JAPAN ”World Veterinary Day”へのブースおよびステージ
出展と、年次大会(2024 年 11 月 17 日 *農林水産省補助事業(令和 6 年度獣医療提供体
制整備推進総合対策事業)について報告があった。

2) 日本獣医師会雑誌連載の企画・調整

当研究会の企画による、日本獣医師会雑誌の連載「解説 獣医療とコミュニケーション」が第
29 回をもって終了したことが報告された。

3) 第 5 号会報(2025 年 3 月 1 日付)の発行

第 5 号の発行について報告があった。

4) 倫理審査報告(資料 1)

資料 1 のとおり、2 件(のべ 5 件)の審査を実施したことが報告された。

5) 2024 年度決算(資料 2)

決算案について事務局より説明の上、松井監事が諸事情により欠席となったため、代役として
監査内容について木村会長から報告があり、賛成多数により承認された。

2. 審議事項

1) 事業計画案

1-1) 2025 年 年次大会

本年度の年次大会も開催を予定するものの、円滑に準備を進めるため、大会長制度を廃止す
ることが提案され、承認された。

1-2) 哲学対話(4 月 29 日 オンライン)

2025 年 4 月 29 日 21:00 から開催することが承認された。

1-3) 動物感謝デー(9月)

詳細は未定であるものの、本年度の開催に際しても出展を検討することが承認された。

1-4) 第6号会報の発行

継続して発行することが承認された。

2) 予算案(資料3)

昨年度と同程度に年次大会の経費と参加費を計上した上で、倫理審査委員の研修費(日当含む)2名分を支出、審査料2件分を収入とした予算案で承認された。

3) 任期満了に伴う次期役員の改選

3月13日～4月22日の告示期間中に以下9名の候補者があり、運営規約第8条の定める定数以内であったことから、「役員選任規定 第3条2項」にもとづき、信任投票を実施した。いずれも賛成多数で信任され、次期体制については任期開始までに発表することとなった。

運営委員：石山 大、今井 泉、木村 祐哉、窪田 健太郎、寺内 宏光、堀北 哲也、若柳 翼

事務局：松井 匠作

監 事：柴田 正志

※任期：2025年10月15日から2028年10月14日

資料1

獣医コミュニケーション研究会倫理審査委員会 審査記録

2025年4月21日時点

日付	種別	申請者	研究課題	結果
2024/7/27	新規	友野 悠	動物病院におけるバーンアウトに関するアンケート調査について	要修正
2024/8/21	再審査	友野 悠	動物病院におけるバーンアウトに関するアンケート調査について	承認 第 2024-01 号
2024/12/31	新規	堀北哲也	産業動物臨床における獣医師と生産者の会話分析および生産者の満足度調査	要修正
2025/2/12	報告	友野 悠	動物病院におけるバーンアウトに関するアンケート調査について	終了
2025/4/1	再審査	堀北哲也	産業動物臨床における獣医師と生産者の会話分析および生産者の満足度調査	承認 第 2025-01 号

資料2

獣医コミュニケーション研究会 会計報告

●貸借対照表●

2025年3月31日(2025年4月16日締め)

【資産の部】		【資本の部】	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
預金	84,445	次年度繰越金	84,445
現金	0		
資産合計	84,445	資本合計	84,445

単位：円

●2024年度 収支決算報告書●

自 2024年4月1日 至 2025年3月31日(2025年4月16日締め)

科目	適用	予算額	決算額	差額
【収入の部】				
動物感謝デー 売上	カステラ 80個×800円、ケーキ 72 個×500円、終盤値下げして販売	0	92,181	92,181
同	ミルクおやじ CD 売上金	0	3,500	3,500
倫理審査料	1件(友野)	10,000	10,000	0
年次大会費	参加費	20,000	0	▲20,000
同助成金	日本獣医師会より	0	41,954	41,954
その他	通帳未記帳にて不明	0	801	801
その他	利息	0	21	21
収入 計		30,000	148,457	118,457
【支出の部】				
動物感謝デー 経費	消耗品(文具、あめ、ガチャ玉) 52,742円、駐車料金 3,200円、 カステラ 80個 51,194円、同宅配 料 1,130円、ケーキ 72個 17,729 円(宅配料含)、振込手数料 550円	0	126,545	▲126,545
義援金	上野裕牧場火災(CD売上金より)	0	3,500	▲3,500
年次大会費	会場費等 (設備利用料 30,520円、サービス 利用料 3,102円、文具 8,332円)	20,000	41,954	▲21,954

資料3

倫理委員研修	APRIN e ラーニング利用料 7,000 円+日当 2,000 円 (窪田)	20,000	9,000	11,000
振込手数料	5 件 (口座 2、窪田、上野、木村)	0	2,190	▲2,190
支出 計		40,000	183,189	▲143,189
差引 計		▲10,000	▲34,732	▲22,732

単位：円 (税込)

本年度収支計 ▲34,732 円
 前年度繰越金 119,177 円
 次年度繰越金 84,445 円

以上の通り報告します (2025 年 4 月 27 日)。

会計 堀北哲也

会計検査の結果収支が適正であったことを認めます (2025 年 ~~4~~月 27 日)。

会計監査 松井匠作 (印省略)



資料4

●2025年度 収支予算書●

自 2025年4月1日 至 2026年3月31日

科目	摘要	予算額	備考
【収入の部】			
年次大会費	参加費	20,000	10人×2,000円/人
倫理審査料	審査料	20,000	2件×10,000円/件
収入計		40,000	
【支出の部】			
年次大会費	会場費等	20,000	
倫理委員研修	研修費	20,000	2人×10,000円/人
支出計		40,000	
差引計		0	
前期繰越金		84,445	
次期繰越金		84,445	

単位：円（税込）

獣医コミュニケーション研究会
(Japan Association for Veterinary Communication)

通称: 全国畜産支援研究会、農場どないすんねん研究会 (NDK)

役員名簿(第3期)

会 長	木村 祐哉
副会長	石山 大
運営委員	今井 泉
	窪田 健太郎
	寺内 宏光
	堀北 哲也
	若柳 翼
事務局	松井 匠作
監 事	柴田 正志

発行日

—2026年3月10日—